

# 竹 × 守る人。



NPO法人 竹の学校  
稲岡利春さん

竹の縁が深いまちで、  
美しい風景と伝統を  
市民たちが守り継いでいく。

古くから竹の子の産地として知られる京都・長岡京市。面積の約8%を竹林が占める「竹のまち」で、美しい竹林を守ろうと活動する人々がいる。

「かつては竹の子畑だった竹林が、生産者の高齢化や後継者不足で放置竹林になっていく場合が多いんです。そのような竹林を私たち『竹の学校』が管理し応援すれば、放置竹林が少なくなっていく。整備した竹林では、自分達の手で竹の子の栽培も行っています」

乙訓おつくにと呼ばれるこの地方には、京都式軟化栽培法という竹の子の伝統的な栽培法がある。秋、土一面に藁を敷き、その上に土をかぶせ、層にすることで竹の子に適した土壌を保つのだそう。

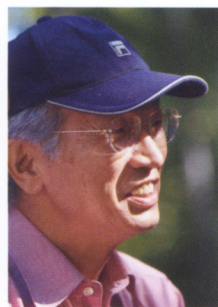
「竹の葉は落ちて枯れにくいので堆積すると水が土に入っていない。だから、葉を取り除いて層を作ってやる。これが大変な重労働で人手がないととてもできません」  
『竹の学校』では現在、1ヘクタールの竹林の整備を市から任されている。

「私たちも竹の子作りが楽しめるし、農家の人もラクになる。好きなことをして誰かの役に立つんだから、こんなに良いことはないですよ」

また、地域イベントへの竹工芸出展や竹炭作り、竹林コンサートや竹の子掘りが体験できるエコツアーの企画など、竹文化の伝承と創造にも力を入れている。昨年は手作りの竹箒たけぼこを東日本大震災の被災地に送った。間伐した竹も可能な限り有効に使う、竹を愛するメンバーが集う『竹の学校』ならではの方針である。

「ここは、しんとして、風の音が心地良いでしょう。竹林の中にいるだけで癒やされます。とにかく皆に竹を好きになってもらいたい。それが一番ですね」

誰のためでもなく、竹を愛し、竹を守るために自ら動く。竹と人との新しい関係が、すでに始まっている。



**NPO法人「竹の学校」**  
長岡京市で放置竹林の整備を進めるボランティア団体。各地から集まった有志がそれぞれの経験や知識、特技を發揮しながら活動している。現在、新メンバー募集中。  
-----  
<http://takenogakkou.xsrv.jp/>